

受験
番号

第 113 回簿記検定試験答案用紙

生年月日 昭・平

試験地 (会議所名)	採点欄

1 級 ①

氏名

商業簿記

連結精算表

採点欄

(単位：千円)

勘定科目	個別財務諸表			消去・振替	連結財務諸表
	P 社	S 社	合計		
貸借対照表					
受取手形	35,000	15,000	50,000		48,000
売掛金	75,000	25,000	100,000		92,000
商品	24,500	16,500	41,000		44,350
土地	65,350	28,500	93,850		94,150
短期貸付金	20,000		20,000		10,000
繰延税金資産	3,420	1,840	5,260		6,520
S 社株式	63,500		63,500		0
M 社株式	29,600		29,600		36,510
連結調整勘定					6,488
その他の諸資産	229,540	68,140	297,680		297,680
資産合計	545,910	154,980	700,890		635,698
支払手形	(26,400)	(8,500)	(34,900)		(30,400)
買掛金	(36,800)	(12,300)	(49,100)		(45,600)
短期借入金	(50,000)	(10,000)	(60,000)		(52,500)
繰延税金負債	(1,500)	(1,000)	(2,500)		(3,580)
その他の諸負債	(43,270)	(39,560)	(82,830)		(82,830)
貸倒引当金	(2,600)	(800)	(3,400)		(3,000)
少数株主持分					(16,450)
資本金	(200,000)	(50,000)	(250,000)		(200,000)
利益剰余金	(185,340)	(32,820)	(218,160)		(201,338)
負債・資本合計	(545,910)	(154,980)	(700,890)		(635,698)
損益計算書					
売上高	(642,450)	(183,560)	(826,010)		(770,810)
売上原価	386,240	126,750	512,990		458,640
貸倒引当金繰入	1,600	600	2,200		1,950
受取利息	(1,260)	(460)	(1,720)		(1,320)
受取配当金	(9,250)	(1,200)	(10,450)		(4,650)
固定資産売却益	(4,500)		(4,500)		(2,500)
支払利息	3,820	1,250	5,070		4,670
その他の収益	(12,400)	(3,600)	(16,000)		(16,000)
その他の費用	236,960	45,570	282,530		282,530
連結調整勘定償却					376
持分法による投資損益					(4,460)
税金等調整前当期純利益	(41,240)	(14,650)	(55,890)		(51,574)
法人税等	17,730	6,680	24,410		24,410
法人税等調整額	(1,240)	(650)	(1,890)		(2,930)
少数株主損益					1,628
当期純利益	(24,750)	(8,620)	(33,370)		(28,466)
剰余金計算書					
利益剰余金期首残高	(180,590)	(29,200)	(209,790)		(192,872)
利益剰余金当期増加高					
当期純利益	(24,750)	(8,620)	(33,370)		(28,466)
利益剰余金当期減少高					
配当金	20,000	5,000	25,000		20,000
利益剰余金期末残高	(185,340)	(32,820)	(218,160)		(201,338)

--	--	--	--

生年月日 昭・平 _____

氏名 _____

第 113 回簿記検定試験答案用紙

1 級 ②

会 計 学

試験地 (会議所名)	採 点 欄

第 1 問

	I 誤っている 語句の記号	II 正しいと思われる適当な語句
1	(c)	臨時償却
2	(c)	事業税
3	(c)	見込販売数量
4	(b)	正規の簿記の原則
5	(b)	リース料総額の現在価値

採 点 欄

第 2 問

問 1

機械A	機械B	機械C
×	○	○

問 2

(単位：千円)

機械A	機械B	機械C
	12,500	2,850

問 3

(単位：千円)

借 方		貸 方	
減 損 損 失	15,350	機 械	15,350

第 3 問

ア	包括主義
イ	当期業績主義
ウ	臨時損益
エ	前期損益修正
オ	経常損益

受験
番号

第 113 回簿記検定試験答案用紙

生年月日 昭・平 . . .

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ③

氏名 _____

工業簿記

問 1

(単位：千円)

完成品総合原価	165,080	月末仕掛品原価	20,035
---------	---------	---------	--------

採点欄

問 2

(単位：千円)

	完成品原価	月末仕掛品原価	標準原価差異
正常仕損費を含まない原価標準で良品の原価を計算する場合	150,000	17,820	17,295 (U)
正常仕損費を含む原価標準で良品の原価を計算する場合	161,400	17,820	5,895 (U)



問 3

(単位：千円)

標準原価差異の分析		正常仕損費を含まない原価標準で良品の原価を計算する場合	正常仕損費を含む原価標準で良品の原価を計算する場合
直接材料費差異 (甲材料)	総 差 異	6,595 (U)	1,567 (U)
	価 格 差 異	310 (U)	310 (U)
	消 費 量 差 異	6,285 (U)	1,257 (U)
直接材料費差異 (乙材料)	総 差 異	120 (F)	120 (F)
	価 格 差 異	120 (F)	120 (F)
	消 費 量 差 異	0 (-)	0 (-)
直接労務費差異	総 差 異	1,500 (U)	744 (U)
	賃 率 差 異	380 (U)	380 (U)
	時 間 差 異	1,120 (U)	364 (U)
製造間接費差異	総 差 異	9,320 (U)	3,704 (U)
	予 算 差 異	1,000 (U)	1,000 (U)
	能 率 差 異	8,320 (U)	2,704 (U)
	操 業 度 差 異	0 (-)	0 (-)



問 4

(単位：千円)

	仕損関連の差異	仕損無関連の差異
直接材料消費量差異 (甲材料)	5,028 (U)	1,257 (U)
直接材料消費量差異 (乙材料)	0 (-)	0 (-)
直接労働時間差異	756 (U)	364 (U)
製造間接費能率差異	5,616 (U)	2,704 (U)
合 計	11,400 (U)	4,325 (U)



問 5

(単位：千円)

実際原価計算の場合	11,851	標準原価計算の場合	11,400
-----------	--------	-----------	--------

生年月日 昭・平

受験
番号

--	--	--	--

氏名

第 113 回簿記検定試験答案用紙

1 級 ④

原 価 計 算

試験地 (会議所名)	採 点 欄

問 1

製品A	製品B
1,500 円	1,200 円

採 点 欄

問 2

480,000 円

問 3

160 時間

問 4

200 個

問 5

128 個

問 6

16 個

問 7

12,000 円

問 8

製品A	製品B	月間貢献利益総額
320 個	200 個	720,000 円

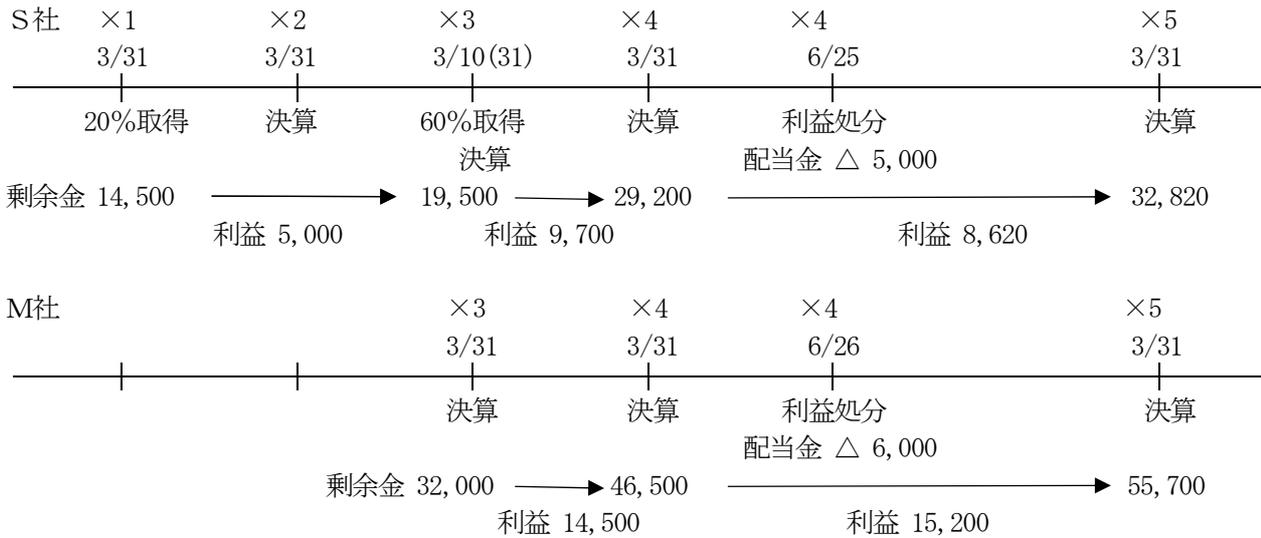
問 9

30,000 円

問 10

140,000 円

商業簿記解説(単位:千円)



S社(部分時価評価法)

20%取得

土	地	500	繰延税金負債	200
			評価差額	300

繰延税金負債 $\{(19,000 - 16,500) \times 20\} \times 40\% = 200$

評価差額 $(19,000 - 16,500) \times 20\% - 200 = 300$

資	本	金	50,000	S	社	株	式	16,000			
利益	剰余金	期首	残高	14,500	少	数	株	主	持	分	51,600
評	価	差	額	300							
連	結	調	整	勘	定	2,800					

少数株主持分 $(50,000 + 14,500) \times 80\% = 51,600$

連結調整勘定 $16,000 - \{(50,000 + 14,500) \times 20\% + 300\} = 2,800$

当期純利益の振替(×1年度末~×3年度末)

利益	剰余金	期首	残高	4,000	少	数	株	主	持	分	4,000
				$5,000 \times 80\% = 4,000$							

連結調整勘定の償却(×2年度末・×3年度末)

利益	剰余金	期首	残高	280	連	結	調	整	勘	定	280
				$2,800 \div 20年 = 140 \times 2年 = 280$							

60%追加取得

土	地	1,800	繰延税金負債	720
			評価差額	1,080

繰延税金負債 $\{(19,500 - 16,500) \times 60\} \times 40\% = 720$

評価差額 $\{(19,500 - 16,500) \times 60\} - 720 = 1,080$

少	数	株	主	持	分	41,700	S	社	株	式	47,500
評	価	差	額	1,080							
連	結	調	整	勘	定	4,720					

少数株主持分 $(51,600 + 4,000) \times 60\% / 80\% = 41,700$

連結調整勘定 $47,500 - \{(50,000 + 19,500) \times 60\% + 1,080\} = 4,720$

当期純利益の振替(×3年度末~×4年度末)

利益	剰余金	期首	残高	1,940	少	数	株	主	持	分	1,940
				$9,700 \times 20\% = 1,940$							

連結調整勘定の償却(×4年度末)

利益	剰余金	期首	残高	376	連	結	調	整	勘	定	376
				$\times 1年度 2,800 \div 20年 = 140$							

$\times 2$ 年度 $4,720 \div 20年 = 236$

M社(持分法の適用)

当期純利益の振替($\times 3$ 年末 $\sim \times 4$ 年末)

M 社 株 式	4,350		利益剰余金期首残高	4,350
14,500 $\times 30\% = 4,350$				

投資差額の償却($\times 4$ 年末)

利益剰余金期首残高	100		M 社 株 式	100
投資差額: $29,600 - \{(60,000 + 32,000) \times 30\% \} = 2,000$				
投資差額の償却: $2,000 \div 20年 = 100$				

期首商品 未実現利益の消去

利益剰余金期首残高	300		商 品	300
少数株主持分	60		利益剰余金期首残高	60
繰延税金資産	120		利益剰余金期首残高	120
利益剰余金期首残高	24		少数株主持分	24
未実現利益 $1,800 \times 20\% / 120\% = 300$			繰延税金資産 $300 \times 40\% = 120$	
少数株主持分 $300 \times 20\% = 60$			少数株主持分 $120 \times 20\% = 24$	

貸倒引当金の設定

貸 倒 引 当 金	150		利益剰余金期首残高	150
利益剰余金期首残高	30		少数株主持分	30
利益剰余金期首残高	60		繰延税金負債	60
少数株主持分	12		利益剰余金期首残高	12
少数株主持分 $150 \times 20\% = 30$				
繰延税金負債 $150 \times 40\% = 60$			少数株主持分 $60 \times 20\% = 12$	



まとめる

開始仕訳

資 本 金	50,000		S 社 株 式	63,500
利益剰余金期首残高	16,918		少数株主持分	15,822
土 地	2,300		商 品	300
貸 倒 引 当 金	150		繰延税金負債	980
繰延税金資産	120			
連結調整勘定	6,864			
M 社 株 式	4,250			

当期純利益の振替 ($\times 4$ 年度末 $\sim \times 5$ 年度末)

少数株主損益	1,724		少数株主持分	1,724
$8,620 \times 20\% = 1,724$				

連結調整勘定の償却 ($\times 5$ 年度末)

連結調整勘定償却	376		連結調整勘定	376
$\times 1$ 年度 $2,800 \div 20年 = 140$				
$\times 2$ 年度 $4,720 \div 20年 = 236$				

利益処分

受 取 配 当 金	4,000		配 当 金	5,000
少数株主持分	1,000			
配当金 P社(親会社)	$5,000 \times 80\% = 4,000$			
少数株主持分	$5,000 \times 20\% = 1,000$			

M社(持分法の適用)

当期純利益の振替(×4年末～×5年末)

M社株式	4,560	持分法による投資損益	4,560
------	-------	------------	-------

$15,200 \times 30\% = 4,560$

投資差額の償却(×5年末)

持分法による投資損益	100	M社株式	100
------------	-----	------	-----

投資差額： $29,600 - \{(60,000 + 32,000) \times 30\% \} = 2,000$

投資差額の償却： $2,000 \div 20 \text{年} = 100$

利益処分

受取配当金	1,800	M社株式	1,800
-------	-------	------	-------

3 内部取引高の相殺消去

売上高	55,200	売上原価	55,200
-----	--------	------	--------

未達商品

商品	4,500	買掛金	4,500
----	-------	-----	-------

期首商品 実現仕訳

商品	300	売上原価	300
----	-----	------	-----

少数株主損益	60	少数株主持分	60
--------	----	--------	----

法人税等調整額	120	繰延税金資産	120
---------	-----	--------	-----

少数株主持分	24	少数株主損益	24
--------	----	--------	----

未実現利益 $1,800 \times 20\% / 120\% = 300$ 繰延税金資産 $300 \times 40\% = 120$

少数株主持分 $300 \times 20\% = 60$ 少数株主持分 $120 \times 20\% = 24$

期末商品 未実現利益の消去

売上原価	1,150	商品	1,150
------	-------	----	-------

少数株主持分	230	少数株主損益	230
--------	-----	--------	-----

繰延税金資産	460	法人税等調整額	460
--------	-----	---------	-----

少数株主損益	92	少数株主持分	92
--------	----	--------	----

未実現利益 $(2,400 + 4,500) \times 20\% / 120\% = 1,150$

少数株主持分 $1,150 \times 20\% = 230$

繰延税金資産 $1,150 \times 40\% = 460$ 少数株主持分 $460 \times 20\% = 92$

4 債権・債務の相殺および貸倒引当金の設定

貸倒引当金繰入	150	貸倒引当金	150
---------	-----	-------	-----

少数株主持分	30	少数株主損益	30
--------	----	--------	----

繰延税金負債	60	法人税等調整額	60
--------	----	---------	----

少数株主損益	12	少数株主持分	12
--------	----	--------	----

前期分の戻入 少数株主持分 $150 \times 20\% = 30$

繰延税金負債 $150 \times 40\% = 60$ 少数株主持分 $60 \times 20\% = 12$

支払手形	2,000	受取手形	2,000
------	-------	------	-------

買掛金	8,000	売掛金	8,000
-----	-------	-----	-------

貸倒引当金	200	貸倒引当金繰入	200
-------	-----	---------	-----

少数株主損益	40	少数株主持分	40
--------	----	--------	----

法人税等調整額	80	繰延税金負債	80
---------	----	--------	----

少数株主持分	16	少数株主損益	16
--------	----	--------	----

少数株主持分 $200 \times 20\% = 40$

繰延税金負債 $200 \times 40\% = 80$ 少数株主持分 $80 \times 20\% = 16$

支 払 手 形	2,500	短 期 借 入 金	2,500
短 期 借 入 金	10,000	短 期 貸 付 金	10,000
貸 倒 引 当 金	200	貸 倒 引 当 金 繰 入	200
法 人 税 等 調 整 額	80	繰 延 税 金 負 債	80
繰延税金負債 $200 \times 40\% = 80$			

5 内部取引の相殺

受 取 利 息	400	支 払 利 息	400
---------	-----	---------	-----

6 未実現利益の消去

固 定 資 産 売 却 益	2,000	土 地	2,000
繰 延 税 金 資 産	800	法 人 税 等 調 整 額	800
繰延税金資産 $2,000 \times 40\% = 800$			

会計学解説

第2問 (単位: 千円)

問1

減損損失を認識するかどうかの判定

割引前将来キャッシュ・フローの合計

機械A $10,400 + 10,816 + 13,520 + 14,061 + 10,820 + 4,866 = 64,483$

$55,000 < 64,483 \quad \therefore \times$

機械B $9,360 + 8,112 + 7,874 + 7,311 = 32,657$

$44,000 > 32,657 \quad \therefore \bigcirc$

機械C $4,368 + 4,110 + 4,218 + 5,849 + 1,638 = 20,183$

$21,000 > 20,183 \quad \therefore \bigcirc$

問2

減損損失の金額

機械B 割引後将来キャッシュ・フロー(使用価値)

$$9,360 \times \frac{1}{1.04} = 9,000$$

$$8,112 \times \frac{1}{(1.04)^2} = 7,500$$

$$7,874 \times \frac{1}{(1.04)^3} = 7,000$$

$$7,311 \times \frac{1}{(1.04)^3} = 6,500$$

30,000

使用価値 $30,000 < \text{正味売却価額 } 31,500 \quad \therefore 31,500$

減損損失 $44,000 - 31,500 = 12,500$

機械C 割引後将来キャッシュ・フロー(使用価値)

$$4,368 \times \frac{1}{1.04} = 4,200$$

$$4,110 \times \frac{1}{(1.04)^2} = 3,800$$

$$4,218 \times \frac{1}{(1.04)^3} = 3,750$$

$$5,849 \times \frac{1}{(1.04)^4} = 5,000$$

$$1,638 \times \frac{1}{(1.04)^4} = 1,400$$

18,150

使用価値 $18,150 < \text{正味売却価額 } 15,000 \quad \therefore 18,150$

減損損失 $21,000 - 18,150 = 2,850$

問3

機械B $12,500 + \text{機械C } 2,850 = \text{合計 } 15,350$

減 損 損 失 $15,350 / \text{機 械 } 15,350$

工業簿記解説(単位：円)

問1

原 価 計 算 表

(単位：円)

摘 要	原 料 甲		原 料 乙		労 務 費		製造間接費	合 計
	数 量	金 額	数 量	金 額	換算数量	金 額	金 額	
当 月 投 入	3,500	65,255	3,000	28,800	3,400	11,020	80,040	185,115
月 末 仕 掛 品	500	9,322.14	—	—	400	1,296.47	9,416.47	20,035.08
計：完成品	3,000	55,932.85	3,000	28,800	3,000	9,723.52	70,623.52	165,079.89

問2

正常仕損費を含まない原価標準で良品の原価を計算する場合

完成品原価 $50,000 \text{ 円} \times 3,000 \text{ 単位} = 150,000,000 \text{ 円}$

月末仕掛品原価

直接材料費 (甲) $16,760 \text{ 円} \times 500 \text{ 単位} = 8,380,000 \text{ 円}$

直接労務費 $2,800 \text{ 円} \times 400 \text{ 単位} = 1,120,000 \text{ 円}$

製造間接費 $20,800 \text{ 円} \times 400 \text{ 単位} = 8,320,000 \text{ 円}$

合 計 17,820,000 円

標準投入額

直接材料費 (甲) $16,760 \text{ 円} \times 3,500 \text{ 単位} = 58,660,000 \text{ 円}$

直接材料費 (乙) $9,640 \text{ 円} \times 3,000 \text{ 単位} = 28,920,000 \text{ 円}$

直接労務費 $2,800 \text{ 円} \times 3,400 \text{ 単位} = 9,520,000 \text{ 円}$

製造間接費 $20,800 \text{ 円} \times 3,400 \text{ 単位} = 70,720,000 \text{ 円}$

合 計 167,820,000 円

差異 $167,820,000 \text{ 円} - 185,115,000 \text{ 円} = \Delta 17,295,000 \text{ 円}$

正常仕損費を含む原価標準で良品の原価を計算する場合

標準原価カード

直接材料費 (甲) 16,760 円

直接材料費 (乙) 9,640 円

直接労務費 2,800 円

製造間接費 20,800 円

正常仕損費

直接材料費 (甲) $16,760 \text{ 円} \times 100\% \times 10\% = 1,676 \text{ 円}$

直接労務費 $2,800 \text{ 円} \times 90\% \times 10\% = 252 \text{ 円}$

製造間接費 $20,800 \text{ 円} \times 90\% \times 10\% = 1,872 \text{ 円}$

合 計 53,800 円

完成品原価 $53,800 \text{ 円} \times 3,000 \text{ 単位} = 161,400,000 \text{ 円}$

月末仕掛品原価

直接材料費 (甲) $16,760 \text{ 円} \times 500 \text{ 単位} = 8,380,000 \text{ 円}$

直接労務費 $2,800 \text{ 円} \times 400 \text{ 単位} = 1,120,000 \text{ 円}$

製造間接費 $20,800 \text{ 円} \times 400 \text{ 単位} = 8,320,000 \text{ 円}$

合 計 17,820,000 円

標準投入額

直接材料費 (甲) $16,760 \text{ 円} \times 3,500 \text{ 単位} = 58,660,000 \text{ 円}$

直接材料費 (乙) $9,640 \text{ 円} \times 3,000 \text{ 単位} = 28,920,000 \text{ 円}$

直接労務費 $2,800 \text{ 円} \times 3,400 \text{ 単位} = 9,520,000 \text{ 円}$

製造間接費 $20,800 \text{ 円} \times 3,400 \text{ 単位} = 70,720,000 \text{ 円}$

正常仕損費 $3,800 \text{ 円} \times 3,000 \text{ 単位} = 11,400,000 \text{ 円}$

合 計 179,220,000 円

差異 $179,220,000 \text{ 円} - 185,115,000 \text{ 円} = \Delta 5,895,000 \text{ 円}$

問3 正常仕損費を含まない原価標準で良品の原価を計算する場合

材料甲

単価
実際 2,105

標準	2,095	価格差異 △ 310,000	
			消費量差異 △ 6,285,000
		標準数量 8個×3,500単位 =28,000個	実際数量 31,000個

材料乙

単価
実際 2,400

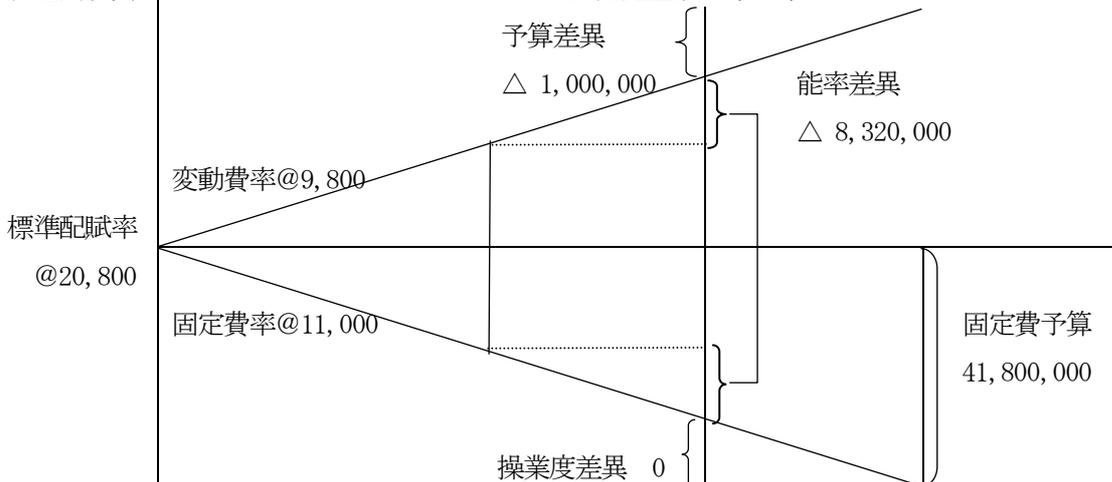
標準	2,410	価格差異 + 120,000	
			消費量差異 0
		標準数量 4個×3,000単位 =12,000個	実際数量 12,000個

労務費

賃率
実際 2,900

標準	2,800	賃率差異 △ 380,000	
			時間差異 △ 1,120,000
		標準作業時間 1h×3,400単位 =3,400h	実際作業時間 3,800h

製造間接費



標準作業度 1h × 3,400 単位 = 3,400h 実際作業度 3,800h 基準作業度 3,800h

正常仕損費を含む原価標準で良品の原価を計算する場合

材料甲

単価
実際 2,105

標準	2,095	価格差異 △ 310,000	
			消費量差異 △ 1,257,000
		標準数量 8個 × 3,500 単位 = 28,000 個	実際数量 31,000 個
		8個 × 10% × 3,000 単位 = 2,400 個	

材料乙

単価
実際 2,400

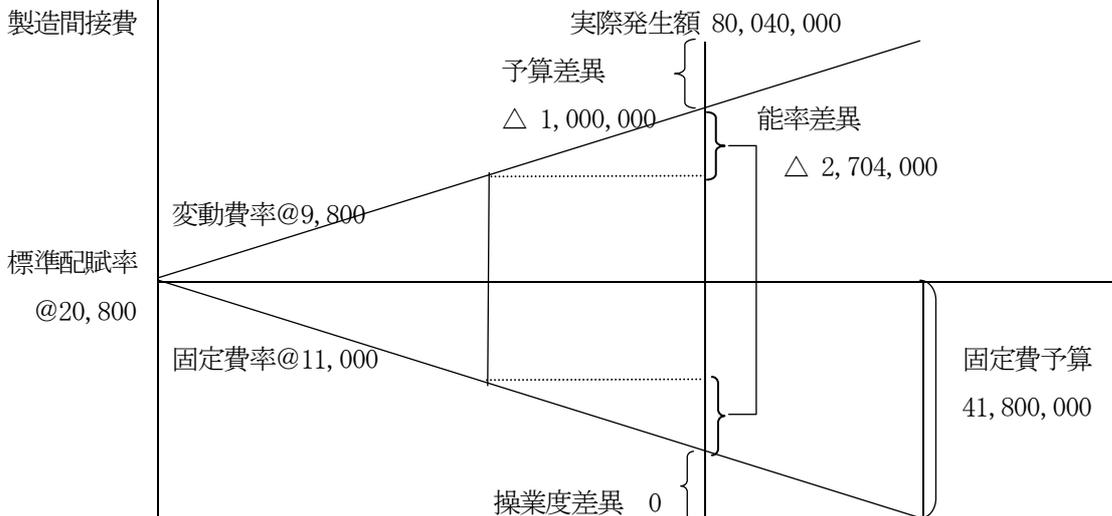
標準	2,410	価格差異 + 120,000	
			消費量差異 0
		標準数量 4個 × 3,000 単位 = 12,000 個	実際数量 12,000 個

労務費

賃率
実際 2,900

標準	2,800	賃率差異 △ 380,000	
			時間差異 △ 364,000
		標準作業時間 1h × 3,400 単位 = 3,400h	実際作業時間 3,800h
		1h × 90% × 10% × 3,000 単位 = 270h	

製造間接費



	標準操業度	実際操業度	基準操業度
1 h × 3,400 単位	= 3,400 h	3,800 h	3,800 h
1 h × 90% × 10% × 3,000 単位 =	270 h		

問4

仕損関連の差異

直接材料消費量差異(甲材料)	$\Delta 2,400 \text{ 個} \times @2,095 \text{ 円} =$	$\Delta 5,028,000 \text{ 円}$
直接材料消費量差異(乙材料)		0 円
労務労働時間差異	$\Delta 270 \text{ h} \times @ 2,800 \text{ 円} =$	$\Delta 756,000 \text{ 円}$
製造間接費能率差異	$\Delta 270 \text{ h} \times @20,800 \text{ 円} =$	$\Delta 5,616,000 \text{ 円}$
		<u>$\Delta 11,400,000 \text{ 円}$</u>

仕損無関連の差異

直接材料消費量差異(甲材料)	$(30,400 \text{ 個} - 31,000 \text{ 個}) \times @2,095 \text{ 円} = \Delta 1,257,000 \text{ 円}$
直接材料消費量差異(乙材料)	0 円
労務労働時間差異	$(3,670 \text{ h} - 3,800 \text{ h}) \times @ 2,800 \text{ 円} = \Delta 364,000 \text{ 円}$
製造間接費能率差異	$(3,670 \text{ h} - 3,800 \text{ h}) \times @20,800 \text{ 円} = \Delta 2,704,000 \text{ 円}$
	<u>$\Delta 4,325,000 \text{ 円}$</u>

問5

実際原価計算

原 価 計 算 表

(単位：円)

摘 要	原 料 甲		原 料 乙		労 務 費		製造間接費 金 額	合 計
	数 量	金 額	数 量	金 額	換算数量	金 額		
当 月 投 入	3,800	65,255	—	—	3,670	11,020	80,040	156,315
月 末 仕 掛 品	500	8,586.18	—	—	400	1,201.08	8,723.70	18,510.96
差 引	3,300	56,668.81	—	—	3,270	9,818.91	71,316.29	137,804.04
正 常 仕 損	300	5,151.71	—	—	270	810.73	5,888.50	11,850.94
引：完成品	3,000	51,517.10	—	—	3,000	9,008.17	65,427.79	125,953.06

標準原価計算

直接材料費 (甲)	$16,760 \text{ 円} \times 300 \text{ 単位} =$	$5,028,000 \text{ 円}$
直接労務費	$2,800 \text{ 円} \times 270 \text{ 単位} =$	$756,000 \text{ 円}$
製造間接費	$20,800 \text{ 円} \times 270 \text{ 単位} =$	$5,616,000 \text{ 円}$
合 計		<u>$11,400,000 \text{ 円}$</u>

原価計算解説(単位：円)

問1

	製品A		製品B
売上高	5,000		4,000
変動費			
直接材料費	2,000		1,000
加工費	$1,000 \times (1h + 0.5h)$	$1,000 \times (1h + 0.8)$	1,800
貢献利益	1,500		1,200

問2

製品Aの生産可能量 $320h \div 1h = 320$ 個

月間貢献利益 @1,500 × 320 個 = 480,000

問3

共通設備の予定遊休時間 $320h - (0.5h \times 320 \text{ 個}) = 160h$

問4

専用設備Bの月間生産能力は $320h \div 1h = 320$ 個生産できる。

共通設備の予定遊休時間では $160h \div 0.8h = 200$ 個生産できる。

∴ 200 個

問5

製品Bの生産可能量 $320h \div 1h = 320$ 個

共通設備の予定遊休時間 $320h - (0.8h \times 320 \text{ 個}) = 64h$

$64h \div 0.5h = 128$ 個

問6

共通設備の予定遊休時間が $0.8h \times 10 \text{ 個} = 8h$ 増えるので、 $8h \div 0.5h = 16$ 個増加する。

問7

製品A (@1,500 × 16 個) - 製品B (@1,200 × 10 個) = +12,000

問8

1 個あたりの貢献利益の高い製品Aを優先して生産する。

製品A $320h \div 1h = 320$ 個を生産すると、共通設備の予定遊休時間 $320h - (0.5h \times 320 \text{ 個}) = 160h$

製品B $160h \div 0.8h = 200$ 個 生産できる。

月間貢献利益 (@1,500 × 320 個) + (@1,200 × 200 個) = 720,000

問9

1 個あたりの貢献利益の高い製品Aを優先して生産する。

製品A $320h \div 1h = 320$ 個を生産すると、

共通設備の予定遊休時間 $(320h + 20h) - (0.5h \times 320 \text{ 個}) = 180h$

製品B $180h \div 0.8h = 225$ 個 生産できる。

貢献利益の増加額 $(225 \text{ 個} - 200 \text{ 個}) \times @1,200 = 30,000$

問 10

	製品A		製品B
売 上 高	5,000		4,000
変 動 費			
直 接 材 料 費	2,000		1,000
加 工 費	$1,000 \times (0.8h + 0.5h)$	$1,000 \times (1h + 0.8)$	1,800
貢 献 利 益	1,700		1,200

1 個あたりの貢献利益の高い製品Aを優先して生産する。

製品A $320h \div 0.8h = 400$ 個を生産すると、

共通設備の予定遊休時間 $320h - (0.5h \times 400 \text{ 個}) = 120h$

製品B $120h \div 0.8h = 150$ 個 生産できる。

月間貢献利益 $(@1,700 \times 400 \text{ 個}) + (@1,200 \times 150 \text{ 個}) = 860,000$

貢献利益の増加額 $860,000 - 720,000 \text{ 個} = 140,000$